

Pearl Memorial presents Soul Carrier

80年越しの断絶を、一つの家族ずつ繋ぎ直す

項目	内容
課題	マウイ島18万人の日系人。80年間、遺骨を届けられないまま世代が途絶えようとしている
緊急性	日系1世・2世の平均年齢85歳以上。日本側も高齢化—両側で時間切れ
解決策	Soul Carrier — 遺骨帰還支援。戸籍調査から直接お届けまで。家族負担ゼロ
実績	教会・寺院・ファームのネットワーク構築済み。初ケース（マーティン）進行中
認定	2023年ラハイナ大火災唯一の生存教会 Maria Lanakila Catholic Church が公式支援決定

なぜ私たちか

社会課題解決を本業とし、その活動基盤として業務支援を行う。

強み	内容
日米両拠点	千葉・宮城（日本） + ハナ・マウイ（ハワイ）
実務経験	大手外資系コンサル100社以上支援、CTO経験、技術書66冊出版
現場力	オフグリッド設計施工、自治会長経験、8000人規模イベント運営
技術	石英刻印（3億年耐久※）、Starlink遠隔支援、40言語フルスタック

※ Hitachi・Southampton大学共同研究に基づく

お願い

形	内容
渡航支援	航空券（3名分 ¥600,000）、マイル、車両アクセス
紹介	共鳴しそうな方への橋渡し
拡散	SNSシェア、口コミ

現地の宿泊・移動は既にネットワークで解決済み。必要なのは太平洋を渡る翼だけ。

連絡先

佐藤卓也 — Pearl Memorial / Soul Carrier
Email: business@satotakuya.jp | Web: bit.ly/pearlmemorial
振込先: PayPay銀行 うぐいす支店(008) 普通 8620704
Wise: wise.com/pay/me/satot67
詳細は次ページ以降 →

構想：マウイ島全体の再生

2023年8月、ラハイナ大火災。歴史的な街が焼失し、100名以上が亡くなりました。

しかしマウイには、もう一つの「断絶」があります。

18万人の日系人。第二次大戦で日本との絆を失い、80年が経過。遺骨を届けられないまま、世代が途絶えようとしている。

緊急性：

- 日系1世・2世の平均年齢：**85歳以上**
- 毎年、推定数百人が遺骨を届けられないまま亡くなっている
- 日本側の受入親族も高齢化—**両側で時間切れが迫る**
- ハワイの日系人の約**30%**が祖先との断絶を経験

今動けば、まだ間に合う。待てば、永遠に届かない。

Soul Carrierは、この二つの断絶を繋ぎ直すプロジェクトです。

なぜ今か

- ラハイナ火災から**2年** — 復興フェーズへ
- 日系1世・2世の平均年齢**85歳以上** — 時間がない
- 私たちの拠点が確立した — 動ける状態
- 能登支援の文脈 — 災害復興への関心が高い

なぜ日本人が取り組むべきか

80年前、私たちが断ち切った絆

1941年12月8日。真珠湾攻撃の日、ハワイの日系人の運命は変わりました。

敵国人として監視され、日本語を話すことを禁じられ、仏壇を隠し、先祖との繋がりを断たざるを得なかった。彼らは日本人であることを隠して生き延びた。

戦争が終わっても、断絶は続きました。日本への渡航は困難になり、親族との連絡は途絶え、世代を重ねるごとに日本語も、ルーツの記憶も薄れていった。

この断絶を作ったのは、私たち日本人です。

災害復興の連鎖

2011年、東日本大震災。世界中から支援が届きました。

2023年、ラハイナ大火災。ハワイの歴史的な街が焼失しました。

受け取った側が、渡す側になる。

日本人が災害支援を受けた記憶は、まだ新しい。今度は私たちが動く番です。

祖先を迎えに行く責任

日系1世・2世は、日本を離れても祖先を大切にしました。仏壇を守り、盆踊りを踊り、先祖の名前を語り継いできた。

私は、それを実際に見ました。

マウイで灯籠流しに参加し、盆ダンスイベントに足を運び、日系人の家庭で仏壇を目にしました。80年経っても、彼らは祖先を忘れていない。日本語を失っても、仏壇の前で手を合わせる姿がそこにありました。

しかし今、その世代が亡くならうとしています。遺骨は届けられないまま、ハワイに留まっている。

彼らの祖先は、私たちの祖先でもある。

日系人のルーツは、日本の家族に繋がっています。群馬に、広島に、沖縄に、待っている家族がいる。知らないだけで。

平和への道

パールハーバーは、日米断絶の象徴です。

私たちの愛犬パールの遺骨を、あの場所に持っていきました。歴史によって引き裂かれた家族の平和を祈るために。

遺骨を届けることは、**80年越しの和解**です。

一つの家族が繋がるたびに、戦争の傷が一つ癒える。これは外交ではできない、草の根の平和活動です。

誰もやっていない

日系人の遺骨帰還を支援する団体は、存在しません。

航空会社も、葬儀社も、自治体も、この課題に取り組んでいない。**競合ゼロの社会課題**です。

誰かがやらなければ、このまま失われる。

私たちは、その「誰か」になることを選びました。

なぜ「今」なのか

戦後80年の節目——今が最後のチャンスです。

事実	意味
日系1世・2世の平均年齢 85歳以上	毎年、数百人が遺骨を届けられないまま亡くなっている
日本側の受入親族も高齢化	両側で時間切れが迫っている
日本語を話せる日系人が減少	ルーツを辿る手がかりが消えていく
戦後80年の節目	歴史的転換点——和解の行動を
団塊世代の大量逝去期	記憶継承の危機がピークに達する

5年後では遅い。10年後には、届ける先がなくなる。

今動かなければ、日系人のルーツは永遠に失われます。

日本の家族も知らないまま。ハワイの家族も届けられないまま。誰も悪くないのに、誰も繋がれない。

この瞬間に動ける日本人が、動くしかない。

やらなければ、何が起こるか

これは「やったほうがいい」ではなく、「やらなければ失われる」問題です。

不作為の結果	影響
遺骨が永遠に届かない	80年間待ち続けた家族の願いが断たれる
ルーツが完全に消える	日本語を話せる世代がいなくなり、調査不能に
両側の家族が知らないまま終わる	日本の親族も、ハワイの親族も、互いの存在を知らずに逝く
和解の機会を逃す	戦後80年の節目を過ぎれば、歴史的意味が薄れる
日系コミュニティの記憶が断絶	口述歴史を残せる人がいなくなる
墓石が風化する	刻まれた名前・家紋・日付が読めなくなり、物理的手がかりも消える

具体的なシナリオ：

- マーティンの母・テルコさんの遺骨は、群馬に届くことなくハワイに留まり続ける
- 日本の親族は「ハワイに親戚がいた」ことを知らないまま世代交代する
- 盆踊りや灯籠流しの意味を知る人がいなくなり、形式だけが残る
- 墓石に刻まれた家紋の意味を、誰も読み解けなくなる

5年後、こう後悔することになります：

「あの時、日本人が動いていれば——」

その後悔を生まないために、今動きます。

二つの未来

繋がりを取り戻した世界：

- 日系人の遺骨が故郷に届き、80年ぶりに家族が再会する
- 日本の親族が「ハワイに家族がいた」ことを知り、新しい絆が生まれる
- 盆踊りや灯籠流しの意味が次世代に語り継がれる
- 墓石の記録がデジタルアーカイブされ、永遠に残る
- マウイから始まったモデルが、ブラジル・ペルー・カリフォルニアへ広がる

- 草の根の和解が、日米関係の新しい層を作る

途絶えた世界：

- 遺骨は届かないまま、家族の願いは消える
- 両側の家族が互いを知らないまま、世代交代する
- 文化行事は形式だけが残り、意味は失われる
- 風化した墓石から、名前も家紋も読めなくなる
- 誰も試みなかった。だから誰も繋がれなかった
- 「あの時代、日本人は何もしなかった」と記録される

どちらの未来を選ぶかは、今この瞬間に決まります。

日本がスルーすることの損失

「海外の日系人の話でしょ？」—そう思った日本人へ。

これは、日本にとっても損失です。

失われるもの	意味
太平洋に広がる家族	300万人の日系人は、日本の「拡張された人口」。繋がりを失えば、ただの外国人になる
草の根外交のチャンネル	政府間関係が悪化しても機能する、民間の信頼回路が消える
インバウンドを超える関係を越える関係	観光客ではなく「帰ってくる家族」という関係を築く機会を逃す
日本人としての誇り	「80年前に断ち切った絆を、80年後に繋ぎ直した」という物語が生まれない
国際社会での評価	「日本人は自国民の世話しかしない」という印象が固定される

日系人は、日本の資産です。

彼らは日本語を失っても、日本を愛している。日本の文化を守り、日本食を食べ、子どもに日本の名前をつけている。

その人たちが「日本に帰りたい」と言っている時に、日本が無視したら——

「日本は冷たい国だ」

その評判は、観光キャンペーンでは取り戻せません。

逆に、日本人が動けば——

「日本人は、80年前の責任を果たしに来た」

その物語は、世界に広がります。

なぜ日本人は見えていないのか

「ハワイ＝高い」という壁があります。

障壁	現実
物価高・円安	渡航費・滞在費が高騰、「気軽に行ける場所」ではなくなった
富裕層のリゾート	「億万長者しか来れない場所」というイメージ
観光地としての消費	ビーチとショッピングだけで終わる滞在
言語の壁	日系人がいることは知っていても、話しかけられない
情報の断絶	日系コミュニティの存在が日本に伝わっていない
「西より東」の傾向	日本人は事業拡大時にアジアに向かう。太平洋を越える敷居が高い

日本企業は、事業拡大のとき東南アジアに向かう。

文化的距離が近い。時差が少ない。「なんとかなりそう」と思える。

でも、ハワイやアメリカ本土は違う。英語の壁、法制度の違い、物価の高さ。**「自分には無理」**という心理的ブロックがかかる。

もしかすると、もっと深い理由があるかもしれません。

敗戦国として、無意識のうちに「アメリカ」を選択肢から外している。集団的な自動思考のように。80年経っても、どこかで「あの国には行きづらい」という感覚が残っている。

私はたまたま西に行きました。そこで見たものを、東に行った仲間にも知ってほしい。

太平洋の向こう側には、日本との繋がりを待っている日系人がいる。そのことを、一人でも多くの日本人に伝えたい。

結果として、日本人は「蓋を開けられない」状態にあります。

- ハワイに日系人がいることは知っている
- でも、彼らが何を抱えているかは知らない
- 遺骨を届けられないまま亡くなっていることも知らない
- 知らないから、動けない

この構造を壊すのが、私たちの役割です。

私たちは現地に住み、日系人と関係を築き、彼らの声を聞いている。その声を日本に届ける。蓋を開けて、中を見せる。

「ハワイは高いから行けない」——その壁の向こうに、80年待っている家族がいることを伝える。

一度知れば、動く人は動く。問題は、知らないことなのです。

国際的視座を持つ人が関わる意味

この活動には、国境を越えて考えられる人が必要です。

必要な視座	理由
日米両方の文脈を理解	日本の戸籍制度も、アメリカの多文化社会も知っている人でなければ橋渡しできない
歴史を俯瞰する目	80年前の断絶を、感情論ではなく構造として理解できる
草の根と制度の両方を動かせる	個人の再会を、社会的インパクトに繋げる設計力
長期的な視野	5年、10年、世代を超えた変化を見据えられる

海外で挑戦している人が持っているもの：

- 国境を越える決断力
- 異文化の中で生き抜く適応力
- 日本の外から見える視点
- 現地ネットワーク
- 「動く」ことを選んだ経験

海外で事業をしている人は、これらすべてを持っている。

その経験が、この活動にとって価値がある理由：

- 「海外に出る」ことの大変さを理解している
- 日本にいる人には見えないものが見える
- 「やる」と決めた人の気持ちが分かる
- 同じ志を持つ人を知っているかもしれない

私たちには現場がある。海外で挑戦している人には仲間がいる。その繋がりが、活動を広げる力になる。

私たちが持っているもの：

- 現地のネットワークと信頼関係
- 日米両方の生活拠点と言語
- 技術的実装力（オフグリッド、デジタルアーカイブ）
- 当事者としてのコミットメント

足りないのは、この二つを繋ぐパートナーシップです。

国際的視座を持つ人々がこの活動に関わることで、「一家族の再会」が「社会モデル」になる。ローカルな活動が、グローバルなムーブメントになる。

あなたの視座が、この活動のスケールを決めます。

AIが可能にした時代

この活動は、10年前には不可能でした。

技術革新	可能になったこと
AI翻訳	日本語を失った日系人との対話、古文書の解読
戸籍・過去帳のデジタル化	遠隔での祖先調査が現実的に
衛星通信（Starlink）	僻地からでもリアルタイム連携
リモートワーク普及	場所に縛られない活動が可能に

AIは言語の壁を壊し、距離を消し、時間を圧縮しました。

80年間でできなかったことが、今ならできる。

これは偶然ではありません。技術が人間の繋がりに追いついた瞬間です。

地政学的な必然

太平洋の時代が来ています。

文脈	意味
日米同盟の深化	政府間だけでなく、草の根の絆が重要に
中国の台頭	太平洋における日系ネットワークの価値
日本の人口減少	海外の日系人は「拡張された日本」
インバウンド依存	観光を超えた、持続的な関係構築が必要

日系人は、日本にとって太平洋に広がる家族です。

外交官にはできない繋がり。観光では生まれない信頼。血縁というインフラが、太平洋に眠っている。

戦後80年という転換点

政治は変わる。関係は残る。

戦後80年を迎えた今、国際情勢は不確実性を増しています。

変化	影響
米国の政権交代	外交方針の変動、同盟関係の再定義
貿易摩擦の可能性	経済関係の緊張、相互不信のリスク
安全保障環境の変化	太平洋における役割の再編
国内世論の分断	「外国」への視線が厳しくなる可能性
米国内の混乱	政府機能の停止リスク、行政の不安定化

米国内も荒れています。

ガバメントシャットダウン（政府閉鎖）のリスク、連邦機関の人員削減、行政サービスの不安定化——公的チャンネルがいつ機能停止するか分からない時代です。

だからこそ、民間の繋がりが重要になる。

政府が止まっても、家族は止まらない。行政が混乱しても、コミュニティは機能し続ける。

政府間関係が揺らぐ時、草の根の絆が支えになる。

歴史を振り返れば、日米関係が最も困難だった時期にも、民間の交流は続いていました。戦時中でさえ、日系人コミュニティは存在し続けた。

今、私たちが築く関係は「保険」です。

- 政治が悪化しても、家族の絆は切れない
- 経済摩擦があっても、共に泣いた記憶は消えない
- 世論が分断しても、墓参りに来た日本人の姿は語り継がれる

この活動は、政治的中立です。

右も左も関係ない。政権も政党も関係ない。家族を繋ぐこと——それだけが目的です。

だからこそ、どんな政治状況でも続けられる。そして、どんな政治状況でも価値がある。

この節目に始めることの意味：

今、関係を築けば、それは10年後、20年後の「当たり前」になる。今、動かなければ、緊張が高まった時には手遅れになる。

穏やかな時に橋を架ける。嵐の時に渡るために。

それを再起動するのが、Soul Carrierです。

なぜマウイなのか

ハワイには多くの島がありますが、マウイを選んだ理由があります。

島	特徴	私たちの選択
オアフ	パールハーバー、観光地化	断絶の象徴
ハワイ島	火山、自然	日系コミュニティは小規模
マウイ	日系移民の歴史、ラハイナ	再生の象徴

マウイは、日本人移民が最初に根を下ろした場所の一つです。

サトウキビ畑で働き、寺院を建て、盆踊りを守り、子どもたちに日本語を教えた。彼らの汗と祈りが、この島に染み込んでいます。

そして2023年、ラハイナが燃えました。

歴史的な街が焼失し、日系人の記憶の場所も失われた。しかし、遺骨は残っている。記憶は、まだ生きている人の中にある。

マウイは、断絶と再生の両方を象徴する島です。

米国人にとってのマウイ

マウイは、アメリカ人にとって特別な場所です。

位置づけ	意味
最後の楽園	本土の喧騒から離れた、癒しの島
ハワイ王国の歴史	ネイティブハワイアンの文化が残る聖地
多文化共生の象徴	日系・フィリピン系・ポルトガル系が共に暮らした歴史
ラハイナ火災後の再生	全米が注目する復興のシンボル

日本人がこの場所で活動することの意味：

パールハーバーを攻撃した国の子孫が、80年後、日系アメリカ人の遺骨を故郷に届ける。

これは和解のメッセージです。

- 加害者の子孫が、被害者の子孫に手を差し伸べる
- 政府ではなく、民間が動く
- 観光ではなく、魂を運ぶ

米国人は、この行動を見ています。

実際に、ラハイナ火災で唯一残った教会が、私たちの活動を正式に認めてくれました（詳細は後述）。

日本人がやるからこそ、意味がある。

草の根が世界を変える

政府にはできないことがあります。

政府・外交	草の根活動
条約、声明、儀式	一つの家族の再会
抽象的な「友好」	具体的な「繋がり」
予算と手続き	情熱と機動力
短期的な成果	世代を超えた関係

Soul Carrierが証明すること：

- 一つの家族が繋がれば、その物語は広がる
- 10件の帰還は、100人の心を動かす
- 100人の共感 は、政策を変える力になる

これは「モデル」です。

マウイで成功すれば、オアフへ、ハワイ島へ、そしてカリフォルニア、ブラジル、ペルーへ。世界中に散らばる日系人コミュニティに、同じモデルを展開できる。

展開先	日系人口	可能性
ハワイ全体	約30万人	直接展開可能
カリフォルニア	約40万人	最大の日系コミュニティ
ブラジル	約200万人	世界最大の日系人口
ペルー	約10万人	南米第2の日系社会

一つの島から、太平洋を越えて。

草の根の活動が、日本と世界の日系人を繋ぎ直す。それは外交ではできない、魂のインフラです。

この活動は、いずれ世界に広がる可能性があります。

最初の一步を、マウイから。

日本人にとってのマウイ

マウイは、観光地ではありません。

私たちにとって、マウイは：

- 祖先が眠る場所 — 本家の墓がここにある
- もう一つの故郷 — 日本語が聞こえる仏教寺院
- 和解の舞台 — パールハーバーの先にある、平和の島
- 持続可能な未来の実験場 — オフグリッド、コミュニティ、ギフトエコノミー

ハナは「本物のハワイ」と呼ばれる場所です。観光開発から守られ、古代ハワイの文化が息づいている。

私たちはそこに拠点を持ちました。娘・糸にとって、ここは永遠の安息地になります。

マウイは、日本人が帰るべき場所です。

三つの柱

1. Soul Carrier — 祖先を家族のもとへ

遺骨の帰還支援。戸籍・寺院記録の調査から、直接お届けまで。全宗派対応。

「祖先は家族のものであり、特定の宗派のものではない。」

仏教徒の祖母にカトリックの孫がいるかもしれない。大切なのは儀式ではなく、再会です。

項目	内容
対象	ハワイ在住日系人（マウイ優先）
目標	年間10件以上の帰還
手法	戸籍調査、寺院記録、現地訪問、遺骨持参
1件あたりコスト	\$5,000（調査\$500・渡航\$2,000・滞在\$1,000・式典\$500・予備\$1,000）
実績	マーティンのケース進行中

サービスの流れ：①ヒアリング（1週間）→ ②日本の親族調査（1-2ヶ月）→ ③受入側調整（1-2ヶ月）→ ④遺骨お届け（1-2週間）→ ⑤報告書提出

遺骨の取り扱い：直接持参（郵送・第三者委託なし）、写真付き全行程記録、24時間連絡体制、法令遵守

80年の断絶を、一つの家族ずつ繋ぎ直す。

2. 持続可能インフラ — 自立する島へ

ソーラー、通信、水循環。災害に強いオフグリッドインフラを複数拠点に展開。

拠点	状況
ハナファーム（ハレ・プエオ）	オフグリッドパビリオン構築済、衛星通信ゲストWi-Fi無償提供中
カフルイ戸建て（日系3世）	ソーラー電力導入支援ケース進行中
ホノルアベイファーム	2026年オフグリッド戸建て新築支援ケース進行中

太陽光で電力を生み、地域に還元する仕組みを作る。

3. コミュニティ再生 — 世代を繋ぐ

若者が自分の道を発見する場。日系の歴史を次世代に伝える場。

活動	内容
ハレ・プエオ	教育者メラニーさんの聖域。若者の受入
口述歴史	日系1世・2世の記憶を記録
文化継承	家紋、仏壇、日本語、食文化
ギフトエコノミー	手作り石鹸130個配布済み

人が集まり、繋がる場を、島全体に広げる。

対象パートナー

テンプル・教会

名称	状況
Maria Lanakila Catholic Church	2023年火災で唯一残った教会。私たちの活動を正式に認め、支援
カフルイ浄土ミッション	30名以上に活動紹介済み
ラハイナ浄土ミッション	オフグリッド支援実施
その他仏教寺院	島内に複数存在

ファーム・コミュニティ

名称	状況
ハレ・プエオ（ハナ）	拠点確立済み。教育者メラニーさんと協働
ホノルアベイファーム	オフグリッド支援実施。John Carty氏運営、Save Honolulu Coalition（501(c)(3)非営利）
その他農園	ネットワーク構築中

日系コミュニティ

- 県人会・日系人会
- 日系3世・4世の家族
- 日本語を失った世代

このネットワークが意味すること

【西洋と東洋】

- Maria Lanakila Church（カトリック）
- 浄土ミッション（仏教）

【島の端から端まで】

- ホノルアベイ（北西） — John Carty
- ハナ（東端） — Melanie

宗教も、地域も、越えている。

私たちは「特定のコミュニティの代理人」ではありません。

島全体を繋ぐ存在として認められ始めています。

私たちについて

佐藤家 — 卓也・美那・系（5歳）の3人家族

私たちは常に家族単位で行動を共にします。これは世代を繋ぎ直す家族プロジェクトだからです。活動諸費用には、娘・系の教育費も含まれます。

項目	内容
拠点	千葉・宮城（日本）+ マウイ島ハナ
法人	Digital Wheel, LLC（日本）
経験	デジタル・テクノロジー分野20年以上
転機	2023年ラハイナ火災後、復興支援のため自ら安定した職を離れる
地域活動	自治会長現任（2年目）
専門	オフグリッド、コミュニティ組織化、行政手続き

なぜ私たちか：

- 日本語ネイティブ、両国に生活拠点
- 行政・寺院手続きの実務経験（戸籍取得、過去帳調査）
- 自らも墓守 — マウイの自家墓を継承決意
- 既にネットワーク構築済み

技術的実績：

- Pearl Memorialレーザー刻印サービス稼働中（ハナ）
- 三億年記録可能な石英刻印技術を確立（※Hitachi・Southampton大学共同研究に基づく）
- QRを使った音声物理化技術を確立
- データ圧縮に関する国際特許出願中

社会課題解決を本業とし、その活動基盤として業務支援を行う。

業務支援できること（AI代替困難領域）：

大手外資系コンサルティングファームでのシニアリード経験（100社以上支援）に加え、取締役CTO経験、複数事業者への技術顧問経験あり。外から助言する側と中で意思決定する側、新規事業立ち上げと事業成長支援、両面の視点を持っています。**BtoC・BtoB・BtoG全領域**での実務経験。制度設計・組織構築拡大経験（最大200人規模）。40以上のプログラミング言語・フレームワークを扱うフルスタック実装力。**技術書66冊**出版の知見共有実績。採用・評価面談を通じた**1,000人超**の対面メンター経験。

業界・技術知見：

- 公共・インフラ：行政、都市開発、エネルギー、国際物流
- 金融・商取引：金融、EC
- 製造・消費財：製造、飲料、ファッション、農業
- サービス：コンサルティング、士業、人材、教育、医療、エンターテインメント
- 先端技術：ブロックチェーン/暗号通貨/DApp、XR、量子プログラミング、マルチクラウドインフラ、ビッグデータ、BI、DevSecOps

領域	具体的な支援内容	なぜAIでは代替不可
現場×技術	オフグリッド設計・施工、IoT実装	物理的存在が必要
日米ブリッジ	英語力（CEFR C1）、両国拠点活用	文化コンテキスト理解
コミュニティ組織化	自治会長経験、8000人規模イベント運営	信頼関係ベース
DX推進	生成AI導入、業務効率化（平均30%向上実績）	組織変革の伴走
フルスタック開発	Web/モバイル/IoT、即座にプロトタイプ化	要件を形にする速度
BCP計画策定	災害対応・事業継続計画、オフグリッド知見活用	現場経験に基づく実効性
研修・講師	AI活用、DX推進、コミュニティ組織化	双方向の対話と即興対応
戦略マップ・BSC策定	現場診断から定量化、立ち上げから上場水準まで	全フェーズの実務経験
BPO/BPR戦略	AI時代に合わせた業務プロセス再設計・見直し	技術×経営の統合視点

衛星通信（Starlink）検証済み — 世界中どこからでも遠隔支援可能

マウイの僻地ハナでも安定稼働を確認。ネット環境がない現場でも、リアルタイムで技術支援・コンサルティングを提供できます。

ユニークポジション：「AIにできないこと」を「AIを使って」やる

- エンタープライズ経験 → 草の根活動へ
- デジタル専門家 → オフグリッド実践者
- 都市(浦安) → 僻地(ハナ)

すでにやったこと：

- マーティンのケースの調査予算を私財で編成、日本の家族候補に調査の手紙を送付
- マーティンの家紋をコルクに刻印—オフグリッド環境で製作
- マウイ島全域の西洋・東洋の墓地基石を家族で見学
- Outriggerより施設利用権、Napili Kai Resortよりホスピタリティルーム提供

Pearl Memorialとは

パールは18年間、私たち家族と共に生きた愛犬でした。

2025年に亡くなった時、私たちは彼の遺骨をパールハーバーに持っていきました。日米の断絶の象徴であるその場所で、妻・

美那と娘・糸と共に、歴史によって引き裂かれた家族の平和を祈りました。

同じ年、私の本家の血筋の墓がマウイにあることが判明。その血筋は途絶える危機に瀕していました。私と妻は共に次男次女一両家の墓を守る唯一の世帯です。私たちはマウイの墓守を引き受ける決断をし、日本とハワイを往復する生活を選びました。

これは単なるプロジェクトではありません。私の人生の道です。

構想の進化：記憶継承からSoul Carrierへ

コンサル時代の構想

2025年6月、私は外資系コンサルティングファームに在籍しながら、パールメモリアル事業計画を策定しました。

当時の構想：

- 技術中心: Voice Memorial QR™（音声物理化技術）
- ターゲット: 富裕層・準富裕層（35万円～650万円のサービス）
- 市場規模: 記憶継承産業 2,800億円（2025年）→ 4,200億円（2030年）
- 投資提案: 2.5億円、5年ROI 1,440%

事業計画書、市場調査レポート、財務モデル。コンサルタントとして培った分析力を総動員し、投資対象として魅力的な構想を作り上げました。

しかし、会社に相談した結果、雇用規定上の制約で承認されませんでした。

転換点

退職を決意し、マウイで実際に活動を始めた時、気づいたので。

技術は手段であって、目的ではない。

1000年の記憶保存より、今この瞬間の再会が必要な人がいる。

高額サービスを買える富裕層より、遺骨を届けられないまま亡くなっていく日系1世・2世がいる。

市場規模やROIより、マーティンの母・テルコさんの帰郷が大切だと。

Soul Carrierへの進化

項目	当初構想（記憶継承）	現在（Soul Carrier）
焦点	技術・記録保存	人の繋がり・再会
対象	富裕層	遺骨を届けられない家族
価格	35万～650万円	家族負担ゼロ
時間軸	1000年保存	今、この瞬間
価値	技術的優位性	80年越しの断絶修復

技術（Voice Memorial QR、石英刻印）は今も使います。

しかし主役は技術ではなく、人です。

事業性の観点

コンサル時代に調査した市場データは、活動の正当性を裏付けています：

- 市場機会: 記憶継承危機は2025年がピーク（団塊世代大量逝去）
- 社会課題: 年間死亡者160万人、無縁墓300万基、能登地震で1.5万基基石倒壊
- 競合不在: 遺骨帰還支援の直接競合は存在しない

違うのは、アプローチです。

利益を追求するビジネスではなく、先に与え、共鳴を生む活動として。

収益化できる部分（オフグリッドコンサルティング、Pearl Memorial刻印サービス）で持続可能性を担保しながら、Soul Carrierの本体はギフトエコノミーで運営する。

これが、コンサル時代の事業計画から進化した現在の形です。

私たちの理念

「先に与える。共鳴が生まれる。境界は消える。」

見返りを求めず、まず与える。オフグリッド支援、手作り石鹸130個の配布、衛星通信の無償提供。その積み重ねが、コミュニティとの関係を作ってきました。

教会が認めたこと

2025年12月、娘が高熱を出し、同時に住居を失う危機に直面しました。

助けを求めて向かった先で、マーティンという男性に出会いました。彼は一言だけ言いました。

「Japanese bond（日本人の絆）」

彼の母親は日本人でした。群馬県出身のテルコさん。2022年に他界し、遺骨は今もハワイに。彼は私たちの最初のSoul Carrierケースになりました。

「教会で卓也さんと出会った時、娘さんが発熱していて助けを求めています。家族を大切にする姿勢に共鳴し、私も彼を助けたいと思いました。彼は私が3年間抱えてきたものを初めて理解してくれた人です。母の帰郷を、彼に託します。」— マーティン

マーティンを通じて、Maria Lanakila Catholic Churchに繋がりました。2023年の大火災で唯一残った教会が、私たち家族の災害復興支援活動を正式に認め、支援することを決めました。

短期滞在費（\$885）を代わりに支払っていただきました。経費申請書類に署名しました。面と向かって。目を見て。握手をして。

火を生き延びた教会が、私たちを認めた。この事実は、署名された文書として残っています。

なぜ私たちか：もう一つの理由

私の父の実家は岩手県、妻の実家は宮城県。

私たちは東日本大震災の被災家系です。

幸い大きな被害はありませんでした。あれは祖先からのメッセージだったと思っています。**「次は、お前が動け」**と。

東北の血が、今マウイにいます。

受け取った側が、渡す側になる。

それがこのプロジェクトの本質です。

証人：メラニーさんの言葉

ハナという場所

ハナはマウイ島東端、曲がりくねったハナ・ハイウェイの終着点にある人口約2,000人の町です。ハワイ王国発祥の地の一つであり、カアフマヌ女王の生誕地。ハワイ最大の神殿ピイラニハレがあり、**「本物のハワイ」**と呼ばれる場所です。

観光開発から隔離された環境が、古代ハワイの伝統と文化的慣習を今に伝えています。

メラニーさんとは

メラニーさんはハナエリアの高校の元校長であり、現在は農園「ハレ・プエオ（フクロウの家）」を営む教育者です。

小さなコミュニティにおいて、校長は単なる学校管理者ではありません。コミュニティの知識人、リーダー、若者の育成者と

して尊敬される存在です。彼女は今も若者が自分の道を発見するための聖域を提供しています。

私たちのミッション・ビジョンを読んだその日の深夜：

「"偶然はない"と確信しました。あなたの家族は、私の活動を認証し、私もあなたたちの活動を前に進める機会を与えてくれました」

「小さな洞窟と滝が、この神聖な癒しのアイナ（土地）での私の最終安息地になると感じています」

私たち家族にとっても、ここは永遠の安息地です。

証人：ジョン・カーティさんとSave Honolulu Coalition

ホノルアベイファーム

ホノルアベイは、マウイ北西部に位置するサーフィンの聖地。1998年、この場所に**\$19.8Mの大規模リゾート開発計画**が持ち上がりました。

ジョン・カーティさんは、この開発を阻止するために**Save Honolulu Coalition**を設立。501(c)(3)非営利団体として、環境保護と文化保全のための活動を続けてきました。

20年以上にわたる闘いの末、開発は阻止され、ホノルアベイは守られました。

現在、ジョンさんはホノルアベイファームを運営しながら、**文化的聖域（Cultural Sanctuary）**としての保護を推進しています。

私たちとの協働

項目	内容
オフグリッド支援	ソーラーシステム設計・設置支援
新築戸建て計画	2026年オフグリッド住宅の技術設計
文化交流	ファームでの体験参加と地域連携

20年にわたり開発と闘い続けた人が、私たちの活動を認めている。

この事実は、私たちが単なる「よそ者」ではないことの証明です。

証人：ランドールさん ― 日系3世の繋がり

カフルイの日系コミュニティ

ランドールさんは、カフルイ在住の日系3世。日本語を話すことができ、祖先との繋がりを大切にしています。

私たちは彼の自宅に太陽光発電システム導入の提案書を作成。業者見積もり\$60,000に対し、**\$10,000**で同等の効果を得られるプランを提示しました。

Enterprise Rent-A-Carとの接点

ランドールさんのいとは、カフルイ空港のEnterprise Rent-A-Carで受付マネージャーをしています。

ランドールさんが助けてくれたこと：

私たちのクレジットカード・デビットカードが信用不足でレンタカーを借りられなくなった時、ランドールさんは自らのカードで、いとこの会社で決済してくれました。

見ず知らずの日本人家族のために、自分のカードを使う。これが日系人の絆です。

現在、そのレンタカーでStarlink Miniを使ったマウイ全域での通信テストを実施し、観光Wi-Fiサービスの可能性を検証しています。

日系3世のネットワークが、観光インフラの新しい形を作る可能性がある。

付録：正直な状況

(本編の理解には必須ではありません。私たちの背景をより深く知りたい方向けの補足です)

私がこの道を選んだ経緯

安定した職を離れて、誰もやっていないことを始めました。

家族でマウイ島と日本を往復しながら、日系人の遺骨を故郷に届ける活動をしています。80年前、戦争で断ち切られた家族の絆。それを繋ぎ直す仕事です。

誰もやっていなかった。だから始めました。

父親との関係

2025年12月、日本の父親から条件付きの支援継続を提示されました。

不動産ローンの肩代わりは一時的に続いています。しかしその条件は、事業活動をトーンダウンし、日本で普通の仕事に就くこと。

つまり、この道を諦めれば支援するというスタンスです。

父の背景を説明させてください。

父は元東京都の公務員。下水道局で**40年間**従事し、監査的役割も担ってきました。安定した収入、定年退職、年金。その道を歩んできた人です。

起業家のマインドセットも経験もない。「安定した職を捨てて、見えない未来に賭ける」という選択は、父の世界観では理解の外にあります。

だから、父の心配は理解できます。悪意ではなく、愛情の表現なのだと思います。

ただ、その愛情の形と、私たちの道は重なりません。

債務超過の経緯

2023年のラハイナ大火災後、段階的に復興支援のための研究開発と自己投資を続けてきました：

【1回目マウイ渡航】

- パールハーバーでの平和祈願
- 東洋・西洋基地の墓石視察

【2回目マウイ渡航】

- 盆ダンス・灯籠流しなど文化視察
- 現地日系人との初期コネクション形成
- 現地支援ファーストケース確立（遺品整理、クリーンセンター・ランドフィル配送支援）
- オフグリッド初期実証、現地機材調達検証

【日本での研究開発】

- 富士山・山中湖でのオフグリッド機材検証
- 移動型ソーラー発電デジタルファブリック工房検証
- 衛星通信検証（Starlink）
- 烏骨鶏飼育による持続可能な食料生産検証
- 刻印造形技術の検証（3Dプリンタ、レーザー刻印、溶融機、熱圧縮、粉碎機）
- クラフト技術の確立

【3回目マウイ渡航（現在）】

- 現地本格ネットワーク形成
- 初期支援体制の確立

項目	投資額
Pearl Memorial刻印機材・開発	約300万円
Starlink・オフグリッド機材（日本+マウイ両方で調達）	約500万円
渡航費・滞在費・レンタカー（各車体での機材搭載検証含む）	約800万円
研究開発・特許出願	約400万円
合計	約2,000万円以上

すべて私財と借入で賄いました。結果として、**債務超過**の状態にあります。

財務健全化への道筋：

項目	状況
不動産ローン	父が一時的に肩代わり継続中
浦安物件含み益	約5,000万円（査定1.5億円－残債1億円）
月間固定費	約52万円（不動産40万＋車6.5万＋ストレージ5.5万）
収益化可能事業	オフグリッドコンサル、Pearl Memorial刻印（即時可能）

債務超過は事実ですが、資産の含み益と収益化手段があります。パートナーシップにより、財務基盤を安定させながら活動を拡大する計画です。

血縁から共鳴へ

父親からの条件付き支援。同じ時期に、教会からの支援が始まりました。

「**条件付き承認**」—これは私の家系に続いてきたカルマです。
「〇〇すれば認める」「〇〇しなければ支援しない」。この条件付きの愛のパターンを、私の代で断ち切りたい。

血縁が切れた時、共鳴が繋がった。古い回路が閉じた時、新しい回路が開いた。

私たちは、**血縁のネットワークから、共鳴のネットワークへ移行**しました。

5歳の娘・糸は、この転換点に立ち会いました。彼女が継ぐのは、条件付き承認のカルマではなく、共鳴の物語です。

なぜ今この瞬間に支援が必要か

現在、私たちはハナに滞在しています。
ガソリンはカフルイ空港への片道分しかありません。
娘・糸の発熱と住居喪失の危機を乗り越え、メラニーさんの農園に辿り着きました。

機会はあります。ネットワークは構築されています。ケースは進んでいます。

しかし、動くための資金がありません。
これが、今この瞬間に支援が必要な理由です。

事業規模

収益モデル：価値創造ベース

オフグリッドコンサルティングの実例：

項目	内容
クライアント	日系3世・ランドールさん（マウイ在住）
業者見積もり	\$60,000（約900万円）
私たちの提案	\$10,000（約150万円）で同等効果
創出した価値	\$50,000の節約 （約750万円）
追加提案	Starlink × レンタカー事業（年間\$170K収益見込み）

この1件で、コスト削減＋新規事業創出を同時に実現。

成果報酬モデル：

収益源	単価/料率	備考
オフグリッド診断	\$500	初回相談
導入コンサルティング	\$1,500/件	設計・調達支援
成果報酬（節約額）	10-20%	業者見積との差額から
事業創出報酬	立ち上げ\$5,000＋収益10%	新規ビジネス構築時

段階的成長

年	収益目標	内訳
1年目	1,000万円	Soul Carrier 3件＋コンサル5件＋Pearl Memorial
2年目	2,500万円	Soul Carrier 5件＋コンサル10件＋事業収益分配開始
3年目	5,000万円	Soul Carrier 10件＋コンサル20件＋複数事業からの収益
5年目	1億円	マウイ全域＋オアフ展開＋収益事業の成熟

長期ビジョン

年	マイルストーン
1年目	マウイ3拠点でモデル確立、初の帰還完了
2年目	島内10拠点へ拡大、501(c)(3)取得
3年目	オアフ・ハワイ島へ展開
5年目	全米日系コミュニティへ
10年目	ブラジル・ペルー等の日系社会へ国際展開
究極	東洋西洋墓石イノベーション

究極のビジョン：基石の寿命境界消滅

これは東洋・西洋共通の課題です。

世界中の基石は風化する。刻まれた名前、日付、家紋——数十年から百年で読めなくなる。

これは、マウイ島の東洋・西洋の基地で私たちが実際にこの目で見た現実です。

300年前の民衆の記録は、事実上ない。

王族や貴族の記録は残っている。しかし、普通の人々——農民、職人、商人——彼らが生きた証は、基石の風化と共に消えた。

私たちが開発した石英刻印技術は、3億年の耐久性を持つ。

課題	現状	私たちの解決策
基石の風化	50-100年で刻印が読めなくなる	3億年耐久の石英刻印
記録の消失	300年前の民衆記録は存在しない	永続的記録の民衆化
東洋・西洋の分断	基石文化は異なるが課題は同じ	技術で境界を越える

DNAと刻印——ルーツの二つの軸

DNA検査は「どこから来たか」を教える。生物学的な血統。しかし、「誰だったか」「何を願ったか」「どう生きたか」——それは遺伝子には刻まれていない。

石英刻印は物語としてのルーツを記録する。名前、家紋、生きた証。DNAが「血」を繋ぐなら、刻印は「魂」を繋ぐ。

刻印永続化の民衆化。

高価な石碑を買える人だけでなく、すべての人の魂が永続的に記録される世界。

究極ビジョンの事業規模

市場	規模	備考
世界の基石市場	約3兆円/年	米国だけで\$3B
メモリアル産業全体	約15兆円/年	葬儀・埋葬・記念品含む
日本の基石市場	約1,500億円/年	年間140万人死亡
風化による建替需要	市場の30-40%	最大の隠れた課題

私たちの参入ポイント：

フェーズ	内容	規模感
実証	マウイ日系基石の石英刻印化	100基 = 5,000万円
展開	ハワイ全域 + 日本市場参入	1,000基 = 5億円
スケール	東洋・西洋両市場への技術ライセンス	年間100億円規模

風化しない刻印が普及した世界では——

人々は自分の祖先を知る。300年前の農民も、500年前の職人も。すべての魂が記録に残る。

私は基石のデファクトスタンダードを創る決意で全てに取り組んでいます。

収益源の多層化

収益源	内容	時期	収益性
オフグリッドコンサル	技術設計・導入支援	即時可能	高
Pearl Memorial 刻印	記念品・メモリアル製作	即時可能	中
観光Wi-Fi広告	Starlink × Captive Portal	検証中	高（スケール後）
Soul Carrier	企業スポンサー型	2年目～	中
事業創出報酬	クライアントの新規事業からの収益分配	随時	高

自立への道筋：

- 1年目：スポンサー70% + 収益30%
- 3年目：スポンサー50% + 収益50%
- 5年目：スポンサー30% + 収益70%（自立構造）

社会的インパクト

指標	5年目標
帰還完了件数	30件以上
繋がった家族	100家族以上
オフグリッド導入拠点	20拠点
雇用創出（現地）	5名以上
口述歴史アーカイブ	50件以上

測定不能なインパクト：

- 80年越しの再会がもたらす癒し
- 次世代への物語の継承
- 日米関係の草の根外交

- コミュニティの再生と活性化

支援レベル

レベル	金額	実現すること
調査スポンサー	\$1,500	1件の調査（渡航前）
ケーススポンサー	\$5,000	1家族の完全帰還
年間パートナー	\$15,000/年	年3件
ミッションパートナー	\$50,000/年	無制限 + 日本拠点
ファウンディングサークル	\$200,000/年	完全存続保証

想定される支援者ペルソナ

調査スポンサー（\$1,500）

「祖母がハワイ出身だと聞いていたが、詳しいことは分からない。まずは調査だけでもしてほしい」

- 日系3世・4世で、ルーツに関心を持ち始めた個人
- 親の遺品整理で古い写真や手紙を見つけた家族

ケーススポンサー（\$5,000）

「母の遺言で、祖母の故郷に遺骨を届けてほしいと言われている」

- 遺骨帰還を具体的に望む家族
- 日系人会・県人会からの紹介ケース

年間パートナー（\$15,000/年）

「企業のCSR活動として、日系コミュニティへの貢献をしたい」

- 日系企業の現地法人（ハワイ進出企業）
- 日系アメリカ人経営者

ミッションパートナー（\$50,000/年）

「社会貢献だけでなく、自社の顧客にもこのサービスを紹介したい」

- 葬儀社・終活サービス企業
- 富裕層向けプライベートバンク
- 航空会社（マイル寄付プログラム連携）

ファウンディングサークル（\$200,000/年）

「この活動の創設メンバーとして、歴史に名を刻みたい」

- 財団・助成機関
- 社会貢献型組織
- 災害復興に関心のある大口個人寄付者

最も必要なもの

1. 移動手段

- 航空マイル・フライトスポンサー
- 車両アクセス（レンタカー・ライドクレジット）
- 渡航助成金
- その他、移動を可能にするあらゆる方法

日本での車両について：

現在、ステップワゴンを所有しています（残価設定クレジット・保険継続中）。日本での移動手段として活用していますが、維持費が負担になっています。

項目	内容
月額返済	約6.5万円
年間負担	約78万円（+保険料）

選択肢：

選択肢	内容
残クレ完済支援	維持費負担の軽減
購入	残債引き継ぎで取得可能
共同利用	活動車両として開放

ローンが解消されれば、遺骨帰還活動や日系人家族の日本国内移動に使用できます。

2. 日本での受入拠点

遺骨を届ける先は日本です。帰還セレモニー、日系人家族の滞在場所が必要になります。

浦安の物件について：

現在、私たちは浦安に不動産を所有しています。売却を検討していますが、もし共鳴いただける方がいれば、以下の形での活用も可能です。

項目	内容
購入価格	1億1,600万円
ローン残債	約1億円
月額返済	約40万円
ローン期間	35年
査定概算	約1億5,000万円
売却打ち合わせ	2025年1月5日予定

現状： 不動産担保ローンの申請手続きも開始していますが、できれば避けたい選択肢です。

選択肢：

選択肢	内容
購入	ローン残債の引き継ぎで取得可能
活用	日本滞在時の一時拠点として
開放	マウイの日系人が日本を訪れる際のコンドミニアムの位置づけ

想定される使い方：

- 遺骨帰還に同行する日系人家族の宿泊
- 帰還セレモニー前後の滞在
- 日本のルーツを訪ねる日系3世・4世の拠点

ローン返済がなくなれば、この物件を**日米を繋ぐハブ**として無償開放できます。

3. 保管スペース

現在、日米両方でセルフストレージを借りて記念品・在庫・活動資材を保管しています。

日本（浦安エリア）：

項目	内容
広さ	約8畳
月額	5～6万円
年間負担	約60～72万円

マウイ：

項目	内容
キヘイ	活動資材・在庫保管
カフルイ	活動資材・在庫保管

日米合わせて複数のストレージを維持しており、継続的な負担になっています。

用途：

- 記念品・在庫・活動資材の保管
- 備蓄食料・防災物資の保管（災害時の相互支援インフラ）

4. 倉庫スペース（将来構想）

浦安拠点に加えて、別途倉庫スペースがあれば理想的です。

- 日系人家族をおもてなしするための資材・備品の保管
- 帰還セレモニー用品の常備
- 滞在ゲスト用のアメニティ・寝具等のストック
- 備蓄食料・防災物資の本格的な保管

住居と倉庫が分離されていることで、家族滞在時の快適さと活動インフラの両立が可能になります。

お願いしたいこと

できる形で

無理のない範囲で、できることがあれば。

形態	内容
活動支援	渡航費・滞在費・活動費など、できる範囲で
紹介	共鳴してくれそうな人に話を繋ぐ
拡散	SNSでシェア、話題にする
応援	「頑張れ」の一言でも力になる

お返しできること

- 帰還セレモニーへのご招待 — 80年越しの再会に立ち会う
- マウイでの再会 — いつか来れた時に、島を案内します
- 石英刻印への支援者記録（3億年保存）
- 活動報告 — 進捗を定期的に共有

私たちのコミットメント

- マウイに戻り続けます — 本家の墓がここにある
- 全てのケースを結論まで導きます — 帰還 or 調査終了報告まで遂行
- 会計は全て公開します — 年次外部監査予定
- 嘘偽りなく、魂を込めて活動します
- 万が一の継続保証 — 活動困難時、調査記録を信頼できる団体へ引き継ぎ

ガバナンス体制

役割	担当
運営主体	Digital Wheel, LLC（日本）
代表	佐藤美那
アンバサダー	佐藤卓也
会計監査	年次外部監査予定
諮問委員	宗教者・法律家・日系コミュニティ代表（構築中）
米国法人格	501(c)(3) — 2年目に取得予定

法人格強化の計画：

- 1年目：Digital Wheel, LLC（日本）で運営開始
- 2年目：米国501(c)(3)非営利法人取得、税控除対象化
- 諮問委員会：Maria Lanakila Catholic Church関係者に就任打診中

潜在的なパートナーシップ

- 日系人会・県人会 — 対象家族の紹介、コミュニティへの周知
- 日本の寺院ネットワーク — 受入先調整、永代供養の手配
- 航空会社 — マイル寄付プログラム、渡航支援
- 葬儀社 — 遺骨の適切な取り扱いに関する助言
- 大学・研究機関 — 日系移民史の記録、口述歴史プロジェクト

最初の一步

具体的なお願いがあります。

「渡航チケット、代わりに用意してくれませんか？」
家族3人分。1月8日～3月31日。Hawaiian Airlines。
羽田空港 → マウイ島（ハナ）
60万円。（島内ローカル空港渡航費込み）

それだけで、私たちはマウイに戻れます。待っている人たちのもとへ。

宿泊先、現地の移動手段は、現地ネットワークで解決できます。

メラニーさんのファーム、ランドールさんの車、教会のサポート——地上のインフラは整っています。足りないのは、太平洋

を渡る翼だけです。

その後、活動報告させていただきながら、継続支援などご相談させていただきます。現地での衛星通信も検証済みなので、通信プラン加入での事業支援や、リモートでの事業推進・技術支援も可能です。

この3ヶ月で実行すること：

予定	内容
マーティンさんの遺骨預かり・行政手続き	Soul Carrier初ケースの本格始動
ハナファームのソーラーインフラ最適化	メラニーさんの農園を完全オフグリッド化
ホノルアベイファームのオフグリッド新築	技術責任者として設計・施工を遂行
カフルイのソーラー電力導入	ランドールさん宅への太陽光システム設置
マウイ各地の教会・寺院へのスポンサー提案	ネットワーク拡大、次のケース開拓
地域イベントでのギフトエコノミー実践	手作り石鹸配布、関係構築の継続

60万円で、これが動き出します。

マウイが、私たち日本人を呼んでいます。

火災から立ち上がりようとしている島。80年間、日本との繋がりを待ち続けてきた日系人たち。彼らは今、私たちを求めています。

お願い	効果
往復航空券3枚（1/8～3/31・羽田⇄マウイ）	約3ヶ月間、本格的に活動を展開できる
マイルの寄付	現金がなくても支援できる
この話を誰かに伝える	共鳴の輪が広がる

5年で1億円規模への成長を目指しています。その最初の一步が、この3枚のチケットです。

1件の帰還が実現すれば、物語が生まれる。物語が広がれば、次の支援者が現れる。

マウイが呼んでいます。一緒に応えませんか。

一部支援・分担支援も歓迎です。金額ではなく、共鳴が力になります。1,000円でも、シェアでも、「頑張り」の一言でも。複数の方からご支援いただいた場合は、活動報告の中で用途を明確にお伝えします。

振込先：

項目	内容
銀行	PayPay銀行
銀行番号	0033
支店	うぐいす支店
支店番号	008
口座番号	8620704

次のステップ

- 話を聞いてみる（30分でも10分でも）
- 共鳴してくれそうな人にこの話を見せる
- マウイ現地視察のご案内（いつか来れたら）

よくあるご質問

Q: 本当に無料ですか？ A: ご家族の負担は完全にゼロです。全費用はスポンサーがカバーし、会計は全て公開します。

Q: 日本の家族が見つからなかったら？ A: 調査記録を全て提供し、日本の寺院での適切な埋葬（永代供養等）を手配。未使用資金は返金します。

Q: 追加費用は発生しますか？ A: いいえ。提示金額に全て含まれています。万が一の追加費用は運営側で負担します。未使用分は全額返金いたします。

Q: 宗派が違って大丈夫？ A: 全宗派対応です。仏教・キリスト教・神道、どの信仰も尊重します。

Q: この活動は継続しますか？ A: Digital Wheel, LLC（日本法人）が運営。2年目に501(c)(3)取得予定。諮問委員会で持続性を担保します。

Q: 債務超過と聞きましたが大丈夫ですか？ A: 不動産に約5,000万円の含み益があり、父による一時的な支援も継続中です。パートナーシップにより財務基盤を安定させる計画です。

補足資料（ご要望に応じて提供）

- 活動写真（家族、教会、Pearl Memorial、ハナファーム）
- マーティンからの推薦状（正式書面）
- Maria Lanakila Catholic Church署名書類
- 詳細な調査プロセス説明書（サンプル付き）
- 過去のオフグリッド支援実績
- 遺骨輸送に関する法規制の概要

連絡先

佐藤卓也 — Pearl Memorial / Soul Carrier

- Email: business@satotakuya.jp
- Web: bit.ly/pearlmemorial
- Wise: wise.com/pay/me/satot67

最後に

マウイには、80年前に引き裂かれた家族がいます。

彼らを繋ぎ直すことは、私たちにとって平和への道です。

究極の問いがあります。

300年前、民衆の記録は残っていない。普通の人々——農民、職人、商人——彼らが生きた証は、墓石の風化と共に消えた。これは、マウイ島の東洋・西洋の基地で私たちが実際にこの目で見た現実です。

もし、**3億年残る刻印が一般化した世界があったとしたら**——すべての人が、自分の祖先を知る。500年前のご先祖様がどこで生まれ、何を願い、どう生きたか。その記録が、永遠に残っている。

その世界で、人は争うだろうか。

自分の祖先が見ていると知っていたら。自分の子孫が、500年後もこの選択を見ると知っていたら。

踏みとどまるのではないか。

魂の永続的接続が実現した世界では、人は争いを止める理由を持つ。

これが、私たちの究極の問いです。

「共鳴が境界を越える」

国境も、制度も、血縁も、カルマも。共鳴の前に、境界は存在しなくなります。

Pearl Memorial presents Soul Carrier — ルーツ再接続による島の再生。

一緒にやりませんか。

この話が響きそうな方へ、シェアしてください

- 海外生活・留学経験がある方
- ハワイに縁がある方
- 家族のルーツや歴史に関心がある方
- 日系人・移民の話に心が動く方
- 社会課題に取り組む活動を応援したい方
- 日系人の友人・知人がいる方
- ルーツ探しや遺骨の相談を受けたことがある方

- 国境を越えた家族の断絶を経験した方
- 移民・帰国子女の家族を持つ方
- 世代を超えて途切れた繋がりを諦めたくない方

「自分は対象じゃない」と思っても、あなたの周りに届くべき人がいるかもしれません。

共鳴は、広がることで力になります。